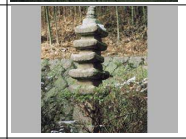
国／県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	重要文化財（彫刻）	木造神像　11軀 木造随身立像　4軀	もくぞうしんぞう もくぞうずいじんりゅうぞう	15軀	府中市元町 （府中市教育委員会　寄託）	平成29(2017)年9月15日		像高（神像）42.2～63.3cm（随身）100.3～138.5cm	備後国府跡の近くにある南宮神社の本殿に御神体として伝来した神像群と，同社の門に安置される，随身と称される左右一対の神像二組である。平安末期から鎌倉前期にかけての製作とみられる。男神4軀と女神3軀は同じ作者の手になるとみられるが，年齢や性格などを作り分けているのが注目される。近年の調査で見出された作例である。		
国	史跡	備後国府跡	びんごこくふあと		府中市元町	平28.10.3 令和元.10.16（追加指定）			古代備後国の国の行政施設である国府の跡。府中市一帯は旧葦田郡に属し，10世紀の漢語辞書『和名類聚抄』に「国府在り」と記述されている。昭和42年度から行われてきた発掘調査によって，国府を構成する多様な遺跡が確認され，8～12世紀の国府の成立から衰退までの変遷など，古代国家の地方支配の実態を知る上で極めて重要な知見が得られた。平成28年にツジ地区と金龍寺東地区の2地区が，令和元年に伝吉田寺地区が指定されている。 ツジ地区は8世紀を中心に方一町（約109m四方）の区画溝に囲まれて大型掘立柱建物群が建ち並び，大型建物は9世紀に区画溝を失ったが以降も10世紀末まで存続した。出土遺物は，国府系瓦（国が建設した行政施設共通の文様が施された，軒先を飾る瓦），腰帯具（ようたいぐ，古代官人の正装の帯に結い付けた，留具や装飾具），硯や備後国内では他に例を見ない量の国産・輸入品の高級な陶磁器が，12世紀まで連綿と出土しており，文書行政や饗応などに用いられた，備後国内で最も格式高い施設の一つである。 金龍寺東地区は，7世紀に天智天皇が創建したとされる川原寺（奈良県明日香村所在）の中金堂に匹敵する規模で，国府系瓦が用いられている極めて格式の高い礎石建物跡や苑池（池を伴う庭園）遺構が検出されている。国府における宗教政策あるいは饗宴のための施設と推定され，国府の多様な構成要素の一つである。 伝吉田寺地区では，伝吉田寺跡（広島県史跡）に関連する遺構（8～12世紀の門跡と考えられる建物跡等）が確認された。伝吉田寺は，7世紀後半に創建され備後国府における宗教行事を担ったと考えられている。当該寺院の存続期間や構造の移り変わりの一端が判明するとともに，備後国府の実態を知る新たな知見が加わった。		関連施設：府中市歴史民俗資料館（0847-43-4646）
国	天然記念物	久井・矢野の岩海	くい・やののがんかい		三原市久井町吉田字船岩尻 府中市上下町矢野	昭39.6.27			久井町吉田の岩海は宇根山（標高698.8m）山塊の南側の山腹（標高480～570m）にある。傾斜の緩い3条の谷間に沿い，花こう閃緑岩の巨大な岩礫が長く帯状に連続累積し実に見事である。これは，塊状の基盤が気温変化などのため，その節理やヒビにそって剥離・破砕され，風化の進展とともに土壌化した部分は流れ去り，岩礫化したものが残ったものである。 上下町矢野の岩海は矢野温泉の南方約1kmの一渓谷底（標高約450m）にある。閃雲花こう岩の巨大岩礫が重なり，谷底を埋め，その厚さは7m以上，延長70mに及ぶ。巨大な岩礫の間には，ミカドキクガシラコウモリが多く生息し，コウモリ岩として知られている。谷頭・稜線付近の基盤花こう岩がかつて崩壊転落し，風化の進展により礫化し土壌が洗い去られ巨大岩礫の残留累積したものである。		
県	重要文化財（建造物）	青目寺塔婆（五層石塔婆）	しょうもくじとうば（ごそういしとうば）	1基	府中市本山町	昭30.3.30	石造五層塔，花崗岩製	高さ2.09m	鎌倉時代の正応5年（1292）源某を願主に建立された5層の石塔である。基礎に年号の刻銘がある。形の整った美しい石塔である。 青目寺は寛保3年（1743）に現在地に移ったと言われるが，この塔もその折に移されたと思われる。 青目寺は府中平野の北側にある山腹にあり，弘仁4年（813）四国屋島寺の青目上人が開祖したと伝えられる天台宗の寺院である。はじめは背後の亀ヶ岳の山頂にあったが，南北朝の争乱後衰微し，寛保3年（1743）には山上の諸坊の仏像などを現在地に移したと言う。		関連施設：青目寺収蔵庫（0847-45-4459）
県	重要文化財（建造物）	日吉神社宝塔 正和四年五月八日の刻名がある	ひよしじんじゃほうとう	1基	府中市本山町	昭32.2.5	石造，花崗岩製	高さ1.5m	塔の源流は仏舎利を納めたインドのスツーパ（卒塔婆）に始まると言われ，大乗仏教の伝来地においてはその仏舎利を納めた塔を高くすることにより，釈迦への崇敬の念を示したと言われるが，宝塔は原初の形をよく止めた形状をしている。 日吉神社は青目寺（しょうもくじ）の守護神として近江から勧請されたもので，その神社の背後に宝塔がある。南北朝時代の正和4年（1315）の刻銘をもち，基礎の下には備前焼のかめが埋められていた。		
県	重要文化財（建造物）	石造宝篋印塔 正平十の銘あり	せきぞうほうきょういんとう	1基	府中市上下町字矢野	昭38.4.27	花崗岩製	高さ1.16m	南北朝時代の正平10年（1355）建立の宝篋印塔で，塔身に銘が刻まれている。 この塔が建つ矢野は中世矢野郷あるいは矢野荘に属し，南北朝時代初期（14世紀前半）には付近で南朝勢力が活発に活動していた。この塔も当時の上下地方における南朝色を示す資料となっている。		
県	重要文化財（絵画）	絹本著色釈迦十六善神像	けんぽんちゃくしょくしゃかじゅうろくぜんしんぞう	1幅	府中市栗柄町	平6.10.31		縦210.0cm，横81.5cm	釈迦十六善神像は，「大般若経」を転読する大般若会の時の本尊として懸用されたものである。 この画像の時代的特徴は，釈迦の肉髻珠（にっけいしゅ）が低く扁形になり，衣の先端が尖って台座にかかる点，衣や体の墨線に勢いを出すための打込みや肥痩線が使われることなどで，宋元風の影響が強く，南北朝時代末期から室町時代初期（14世紀）の作と考えられる。 この画像にはセットになる大般若経600巻が現存しており，全国的にも稀な例であることから，歴史的意義と共に本県において貴重な仏画である。		
県	重要文化財（彫刻）	木心乾漆日光菩薩立像	もくしんかんしつにっこうぼさつりゅうぞう	1躯	府中市本山町	昭30.3.30	一木造	像高88cm	弘仁4年（813）に創建された青目寺（しょうもくじ）に現存する代表的仏像で，寛保3年（1743）に，山の中腹の現在地へ移されたという。平安時代（794～1191）以来の古仏像群の中でもひときわすぐれたこの像は，平安時代初期の作品と言われ，本尊の十一面観音の脇侍として伝存している。衣文の彫りがやや浅く見えるが，これは乾漆（かんしつ）の手法によっているためと思われる。		関連施設：青目寺収蔵庫（0847-45-4459）

国／県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
県	重要文化財（彫刻）	木心乾漆月光菩薩立像	もくしんかんしつげっこうぼさつりゅうぞう	1躯	府中市本山町	昭30.3.30	一木造	像高88cm	弘仁4年（813）に創建された青目寺（しょうもくじ）に現存する代表的仏像で，寛保3年（1743）に，山の中腹の現在地へ移されたという。平安時代（794～1191）以来の古仏像群の中でもひときわすぐれたこの像は，平安時代初期の作品と言われ，本尊の十一面観音の脇侍として伝存してきている。衣文の彫りがやや浅く見えるが，これは乾漆の手法によっているためと思われる。		関連施設：青目寺収蔵庫（0847-45-4459）
県	重要文化財（彫刻）	木造聖観音立像	もくぞうしょうかんのんりゅうぞう	1躯	府中市本山町	昭40.4.30	一木造	像高117cm	観音像の基本形ともいえるこの聖観音像は，青目寺（しょうもくじ）が亀ヶ岳の山頂で天台宗の大寺院として存在した頃の，いずれかの御堂の本尊であったであろうと思われるが，現在は虫蝕が著しく，両腕が後補であるのは惜しまれる。県重要文化財の日光・月光両菩薩と同じ平安時代初期（9世紀）の優秀な作品で，あるいは青目寺創建当初からの仏像かとも思われる。		関連施設：青目寺収蔵庫（0847-45-4459）
県	重要文化財（彫刻）	木造天部立像	もくぞうてんぶりゅうぞう	2躯	府中市本山町	昭40.4.30	一木造	像高118cm，117cm	この2像については，四天王のうち持国天（じこくてん）及び多聞天（たもんてん）との伝承はあるが，各々の両腕を江戸時代（1603～1867）に修復しており，その名称を明らかにするだけの確証はない。ともに平安時代初期（9世紀）の作で，保存は良好である。平安時代から南北朝時代（9～14世紀）にかけて栄えた青目寺（しょうもくじ）の仏像として，見るに足る作品である。		関連施設：青目寺収蔵庫（0847-45-4459）
県	重要文化財（彫刻）	木造薬師如来坐像	もくぞうやくしにょらいざぞう	1躯	府中市上下町上下	昭54.3.26	寄木造，開敷蓮座，円頭光背	像高149cm，膝張101cm，台座高さ19cm	木彫寄木造で，鎌倉時代後期（13世紀）作の半丈六仏である。 顔面・胸部の金色，薄墨色（灰色）の法衣の彩色，頭部螺髪（らほつ）と円光背（こうはい）の表面の青色は江戸時代（1603～1867）に彩色されたものと思われる。 ※半丈六仏（はんじょうろくぶつ）…いわゆる丈六仏（1寸6尺の略で立像は約4.8m，坐像は約2.4m）の半分の大きさの像。		
県	重要文化財（彫刻）	木造阿弥陀如来坐像	もくぞうあみだにょらいざぞう	1躯	府中市元町	平7.9.21	割矧造，漆地金泥彩，玉眼	像高71.7cm	本像は，割矧（わりはぎ）造りで，頭・体とも前後に二材を合わせている。螺髪（らほつ）は切付螺髪である。面貌は若く張りがあり，引き締まったやや胴長の肉身にまといかかる衲衣（のうえ）は，胸襟で動きがある処理がなされているなど，像の各部が見事な彫刻的均合を保ち，前身に若々しい生気あふれた勇健な表現となっている。全国的に見ても鎌倉時代前半期（13世紀）を代表する傑作である。		
県	重要文化財（工芸品）	金銅仏具 五種鈴5個，輪宝1個，羯磨4個，輪宝台1個，羯磨台4個	こんどうぶつぐ	15個	府中市元町	昭28.8.11		五種鈴（独鈷鈴）高さ21.2cm，径7.4cm （三鈷鈴）高さ19.8cm，径7.4cm （五鈷鈴）高さ19.0cm，径7.4cm （宝塔鈴）高さ22.3cm，径7.4cm （宝珠鈴）高さ19.5cm，径7.4cm。 輪宝　径11.8cm， 輪宝台　径12.5cm。 羯磨　径11.5cm， 羯磨台　径11cm。 火舎　高さ8.4cm，径10.1cm。 六器　高さ3cm，径7.5cm	栄明寺は，弘法大師の開基と伝える真言宗の大寺で，この仏具は密教大壇の仏具だが，それが一括具備している室町時代（1333～1572）の作品として貴重である。 仏具の内容は，五種鈴5口［独鈷鈴（どっこれい），三鈷鈴，五鈷鈴，宝塔鈴，宝珠鈴］，輪宝（りんぽう）1口，輪宝台1口，羯磨（かつま）4口，羯磨台4口，火舎（かしゃ）1口，六器（ろっき）6口である。		
県	重要文化財（典籍）	版本大般若経 附　経櫃　3櫃	はんぽんだいはんにゃきょう	600巻	府中市栗柄町	昭29.11.11	木版刷り		奈良興福寺で印刷・出版された春日版（かすがばん）大般若経の3櫃600巻である。櫃の銘によって室町時代の応永29年（1422）12月に南宮神社に寄進されたことが分かる。 大般若経の遺品は県内に多いが，600巻が完存しているものは比較的少ない。また，原則どおり200巻ずつ3櫃に納められ，櫃が経巻と同時代のものであるのは更に少なく，貴重である。 神宮寺は，南宮神社の別当寺である。この大般若経と同じ時期に寄進された十六善神像も保存されており，貴重な事例となっている。		
県	重要文化財（典籍）	五輪塔形曳覆曼荼羅版木	ごりんとうがたひきおおいまんだらはんぎ	1面	府中市本山町	平7.1.23		縦124.8cm，幅48.5cm，厚さ4.5～5.0cm	曳覆曼荼羅は，中世以来の葬送儀礼に用いられたもので，棺に納められた遺体を覆う白布に成仏を祈願するため曼荼羅等を描いたもので，これを印刷するための版木が寺に伝わっている。 比較的軟式の板材の一面に高さ90.5cmの五輪塔形を陽刻し，梵字・漢文を配している。裏面は一切無地である。 この版木は図像等から，鎌倉時代（1185～1332）の作と考えられるので，全国的にも室町時代（1333～1572）以前の版木は5例しか確認されておらず，全国でも最古級のものと推測される。		
県	史跡	青目寺跡	しょうもくじあと		府中市本山町	昭15.2.23			府中市の北東，亀が岳（標高539m）の山頂西側にある七ッ池周辺に位置する。弘仁4年（813）四国屋島寺の青目上人の開基と伝えられる天台宗の山上寺院で，延喜年間（901～922）の頃には十二坊を数えるまでに至ったという。現在それらに相当する場所には，中御堂を中心に西，南，北の御堂とよばれる遺構が分布しており，建物の積石基壇や礎石などを残す。南御堂付近には，塔をはじめ多くの建築跡が分布するようであり，井戸なども含む。東御堂とよばれる場所は，前記の各遺構よりも東にはずれた位置にある。これは「続日本紀」にみえる備後常城（つねき）に関連した遺構の可能性も考えられ，ここでは南北に両翼のように張りだした石塁なども存在する。		

国／県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
県	史跡	有福城跡	ありふくじょうあと		府中市上下町有福字城山	昭16.3.10			足利尊氏が京都に幕府をたてて間もない建武3年（1336）6月に，青目寺(しょうもくじ)別当弁房らとともに備後国の南朝方の中心人物であった竹内兼幸(たけうちかねゆき)が拠った有福庄内の山城であるが，山内氏・長谷部(はせべ)氏などの攻撃を受けて落城したと伝えられる。 また，天正9年（1581）に有福元貞が毛利輝元から「有福要害」の普請と番衆の入城を命じられたことが確認される。		
県	史跡	天領上下代官所跡	てんりょうじょうげだいかんしょあと		府中市上下町字田中	昭16.3.10	石垣		元禄11年（1698）水野家が断絶した翌年，幕府は備前藩主池田綱政に，福山藩の検地を行わせ，5万余石を打ち出した。このため，幕府は，神石郡，甲奴郡，安那郡5万石余を直轄領として，元禄13年（1700）上下に代官所をおいた。やがて享保2年（1717），中津領に2万石が割かれたのを機会に，代官所は石見大森代官所支配に合わされ，その出張(でばり)陣屋と改められて，神石郡10ヵ村,甲奴郡12ヵ村を管轄した。その後，管下に多少の出入りがあったが，明治元年（1868）に及んだ。現在は町役場として利用されているが，周囲の石垣は往時のままである。		
県	史跡	伝吉田寺跡	でんよしだでらあと		府中市元町字東	昭18.3.26	奈良時代前期に創建された寺跡		現在の府中市街地の北辺，芦田川が備後平野に出る左岸西端の山麓に位置する。従来は奈良時代前期（8世紀前半）の藤原宮式の軒丸瓦，忍冬唐草文軒平瓦（にんどうからくさもんのきひらがわら）ならびにヘラ描き人面瓦などを出土する寺跡として知られていた。昭和42年（1967）の調査によって，北に講堂跡の一部とその南東に一辺14.5mの塔跡基壇が検出され，金堂はその西に存在することが推測される。出土の瓦類には，あらたに川原寺（かわはらでら）創建時に共通する複弁蓮華文軒丸瓦などが出土し，大和地方との密接な関連が推測される。なお，藤原宮式の軒丸瓦は，このほか栗柄廃寺，小山池廃寺，宮の前廃寺など備南に広く分布する。心礎と考えられる石が，金龍寺境内に置かれている。		
県	史跡	南山古墳	みなみやまこふん		府中市上下町水永字南山	平1.3.20	前方後円墳（横穴式石室）	墳丘／全長約22.5m，後円部／直径約14.5m，高さ約4m 前方部／幅約10m，高さ約1.5m 石室／全長約8.35m 玄室／長さ5.6m，幅2.5～1.53m，高さ2m 羨道／長さ2.75m，入口幅0.9m，高さ1.3m	この古墳は，県道福山上下線の上下町から府中市に至る境界辺りに位置し，平地を東に望む比高約20mの丘陵端に築かれた前方後円墳である。全長は22.5mで，後円部は直径約14.5m，高さ約4mで，後円部の東南に長さ約8m，幅約10m，高さ約1.5mの前方部がとりついている。前方部は長さ・高さのいずれも後円部の二分の一前後の規模であり，前方部両端の張出しもつ。内部主体は，後円部の中央あたりから主軸に対して直交し，東北の墳裾に入口部をもうけた横穴式石室である。本古墳の年代は，出土遺物がないので細かな検討ができない。内部主体が羽子板状をなす平面形の横穴式石室であることから，6世紀後半頃と推定しておきたい。		
県	天然記念物	井永のシラカシ	いながのしらかし		府中市上下町字井永	昭60.12.2			JR上下駅の南東約2.6kmの地点に井永八幡神社がある。社殿は南面する丘のやや高いところにあり，その前面にシラカシが繁っている。そのうち社殿の南西方の斜面上部にあるのが対象のシラカシである。井永八幡神社のシラカシには，樹高約15m，胸高幹囲4.5mの巨樹で，主幹の空洞化や木材腐朽菌の着生などが見られるが，枝葉は旺盛に繁茂している。		
県	天然記念物	矢野のケンポナシ	やののけんぽなし		府中市上下町字矢野	昭60.12.2			ケンポナシは落葉広葉樹で，本州，四国，九州に自生し，北海道の奥尻島や朝鮮半島，台湾，中国大陸及びヒマラヤに分布する。 矢野のケンポナシは，JR上下駅から南西方約2.5kmの地点にある福泉寺境内にあり，樹高約29m，胸高幹囲2.25mで，樹勢も盛んな県内最大級の大樹である。		
県	天然記念物	行縢八幡神社の大木群	むかばぎはちまんじんじゃのたいぼくぐん		府中市行縢町鍋島	平3.12.12			本神社の社叢は，社殿の周辺に，ツガ，カヤ，アラカシ，シラカシ，ヤブツバキなどがかなりの大木になって成育しており，低木層に見られるシキミ，シロダモ，アオキ，ネズミモチなどと共に，中間帯自然植生の名残を留めている。 本神社の社叢は，一部の樹木に自然植生の面影を留めているとはいえ，群落としては不完全である。しかし，これだけの大木がまとまって成育し，しかも分布生態の上で興味深い樹木を含んでいることは，学術的に価値が高い。		
県	天然記念物	国留のヤブツバキ	くにどめのやぶつばき		府中市上下町国留字時鳥	平7.9.21			国留はJR上下駅の西方約1kmに位置し，ヤブツバキのある小さな丘陵は芦田川の支流である屋多田川の上流域にある。株元には元禄5・6年（1692・1693）建立の墓碑2基があり，口伝によると，当時，すでにこの墓の両側に2本のツバキがあったという。 このヤブツバキは，樹高約7.6m，胸高幹囲2.18mで，根の隆起が台状に高さ42cmあり，その上から計って，地上1.6mで二本の支幹に分岐し，それらはさらに地上2mで計5本の大枝に，地上3mで計9本に分岐し，全体として笠形の樹形をなしている。主幹には空洞があるものの，樹勢は良好である。 ツバキはツバキ科の常緑亜高木ないし低木で，東アジアの固有種であり，日本・朝鮮半島・中国南部に自生し，北限は青森県夏泊半島椿山である。ツバキにはヤブツバキ（ヤマツバキ），ユキツバキ，リンゴツバキの三変種があり，これらから導かれた多数の園芸品種があって，世界的に庭園樹として重要な樹木となっている。		
県	有形民俗文化財	階見の若宮信仰資料 若宮神像48躯，合祀若宮木札11枚，石造若宮霊璽1基，祖霊社棟札2枚，附祖霊社1棟	しなみのわかみやしんこうしりょう	62点	府中市上下町字階見	平7.1.23	木造の立像，坐像，木札，棟札，神璽	像高／34.3cm～15.1cm	旧甲奴郡地方の若宮信仰は，亡くなった人の霊を氏神とともに祀る祖霊の信仰である。 若宮神像は，木造の立像もしくは坐像で，背部等の墨書によると享保18年（1733）から文政9年（1826）頃の間に制作されている。合祀若宮木札は霊代として使われ，板に墨書したもので天保3年（1832）から大正10年（1921）に作られている。石造若宮霊璽（せきぞうわかみやれいじ）は霊代で文久2年（1862）の建立である。祖霊社棟札（それいしゃむなふだ）は，氏神社の境内に建立された祖霊社の明治13年（1880）の再建棟札と明治38年（1905）の屋根葺替棟札である。 この資料は，この地方の特色ある民衆の信仰生活の様相をよく伝えている。		

国／県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
県	無形民俗文化財	弓神楽	ゆみかぐら		府中市上下町	昭46.12.23			揺輪の上においた弓の弦を打ちながら，祭文をとなえ土公（どこう）神を祭り，五穀豊饒と家内安全を祈る神楽である。 最初の弓初めの簡単な行事と，最後の放ち矢の行事とのほかは，正座して祭文を唱えるもので，他地方で演ぜられる公的な神楽ではなく，招かれた農家で，神官が唱誦する私的な神楽である。 祭文は，「土公祭」祭文を主としてえんえんと唱えられるが，託宣を聞くことを目的としているため，終りにおかぐら祭文を置いている。 家内にしつらえた小型の幣（へい）をたてた祭場の棚飾りは古風であり，部屋に吊るす切り飾りも巧妙である。また，弓を用いる点に原始信仰の痕跡をとどめ，祭文の唱えられる調子も古調である。		
県	無形民俗文化財	矢野の神儀	やののしんぎ		府中市上下町	昭51.6.29			この神儀は，古くから甲奴郡甲奴町小童（ひち）の須佐神社（祇園社）の大祭の神輿渡御式に供御先駆する風流（ふりゅう）である。 矢野は現在須佐神社の氏子ではないが，古くから小童祇園社の勧請神話にも由縁をもち，今も大祭時の御輿清めには矢野の聖水が汲まれる。 神儀には昔からの定めどうり，矢野一円の住民が一戸のもれなく参加し，大太鼓・小太鼓・笛・鉦（かね）・ほら貝の音にのせて，唐うちわ・槍をうちたて，屋形をかつぐなどして，小童の祇園社へくり出すのである。屋形（山とも言う）は歴史・伝説・昔話の人物にし立てて台上に飾ったもので，4人がかりで担かれる。		
県	無形民俗文化財	備後府中荒神神楽	びんごふちゅうこうじんかぐら		府中市 福山市新市町	昭52.9.14			この地方の荒神神楽は，府中市近在の社家に伝承されてきたものを，明治初年に若連中が神楽人として伝授し，現在に至ったもので，7年目毎の年番神楽として一応の体裁を備えている。 この神楽の中心をなす演目は，荒神社の式年神楽において行われるもので，多くは一種の秘伝として取り扱われている。その曲目は，手草舞，剣舞，折敷舞，悪魔祓，造花，龍神舞，布乃舞，焼石神事の9曲である。焼石神事は，尺四，五寸大の河原石を窯火で焼き，神酒と塩を注いだのち，両手で持ちあげ台座の石に打ち当て，その砕けた石片の大小により神意を占うというものである。		
国	登録有形文化財（建造物）	延藤家住宅洋館	のぶとうけじゅうたくようかん	1棟	府中市出口町	平12.10.18	木造二階建，昭和6年（1931）	建築面積48㎡	和館部の玄関脇に建つ応接用の施設である。1階を擬石塗り，2階をハーフティンバーとし，南面にベイウインドウを設け，西面では1階に出窓を造りその上を2階バルコニーとする。小規模ながら華やかな外観をもち，内部の階段廻りなどにも斬新な意匠が見られる。		
国	登録有形文化財（建造物）	延藤家住宅和館（洞仙荘）	のぶとうけじゅうたくわかん（どうせんそう）	1棟	府中市出口町	平12.10.18	木造二階建，昭和6年（1931）	建築面積360㎡	南面する傾斜地に建てられた別荘施設で，和館部は2階建の主体部と渡り廊下で続く離れからなる。玄関奥の二間続きの座敷は数寄屋風の意匠でまとめられ，これに接して四畳半の茶室を備える。複雑にかかる屋根によって，変化に富んだ瀟洒な外観を造る。		
国	登録有形文化財（建造物）	恋しき主屋	こいしきしゅおく	1棟	府中市府中町字横町	平16.11.29	木造平屋一部3階建、瓦葺	建築面積347㎡	通り沿いの2階建，切妻造，平入の建物が明治初期，背面に延びる3階建の客室が明治３８年，大正元年の増築になる。正面中央の望楼風3階も増築。格子や手摺などの細部には伝統的な意匠を残すが，変化に富んだ外観を構成し，街路景観上際だった存在になっている。		
国	登録有形文化財（建造物）	恋しき離れ（桔梗の間）	こいしきはなれ（ききょうのま）	1棟	府中市府中町字永井	平16.11.29	木造平屋建、瓦葺	建築面積26㎡	敷地奥の中庭に北面して建つ。木造平屋建，東西棟の寄棟造，桟瓦葺で，銅板葺の庇を廻す。6畳の座敷と3畳の控室からなる。真壁造で，壁は黒漆喰仕上，丸窓三日月窓など多彩な開口部を配し，格子を皮付き材とするなど，野趣にも富んだ瀟洒な数寄屋風の建物。建築時期は大正初期と考えられる。		
国	登録有形文化財（建造物）	恋しき離れ（菊の間）	こいしきはなれ（きくのま）	1棟	府中市府中町字永井	平16.11.29	木造平屋建、瓦葺	建築面積62㎡	敷地奥の中庭に北面して建つ。木造平屋建，真壁造，東西棟の寄棟造。桟瓦葺で，6畳の座敷と3畳の控室からなり，廊下を延ばして手洗所を付属する。銘木を用いた床の間，木舞打の軒，櫛形風とした小壁の下地窓など，洗練された数寄屋風で，造りも丁寧である。建築時期は大正初期と考えられる。		
国	登録有形文化財（建造物）	恋しき離れ（桐・さつきの間）	こいしきはなれ（きり・さつきのま）	1棟	府中市府中町字永井	平16.11.29	木造平屋建、瓦葺	建築面積107㎡	主屋後方，中庭に面して建つ。真壁造，平屋建で，L字型棟とした入母屋造，桟瓦葺である。桐の間は6畳と8畳の2室構成，さつきの間は6畳1室で，東にある内玄関と廊下で連結する。書院造で外壁黒漆喰塗で下屋庇を廻すなど，堂々とした外観構成をもつ。建築時期は大正後期と考えられる。		

国／県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	登録有形文化財（建造物）	恋しき（竹・萩の間）	こいしきはなれ（たけ・はぎのま）	1棟	府中市府中町字永井	平16.11.29	木造平屋建、瓦葺	建築面積62㎡	敷地奥の中庭に西面して建つ。木造平屋建，真壁造，L字型棟とした切妻造。桟瓦葺で，４畳半茶室，8畳座敷，３畳控室などを巧みな平面構成で処理している。華奢な丸太柱，縦勾配の屋根や庇，竹や網代の造作，繊細な窓など，数寄屋風の軽快で風雅な造りになる。建築時期は昭和23年頃と考えられる。		
国	登録有形文化財（建造物）	上下町商工会館 （旧上下警察署庁舎）	じょうげちょうしょうこうかいかん （きゅうじょうげけいさつしょちょうしゃ）	1棟	府中市上下町	平23.7.25	木造2階建，鉄板葺，建築面積101㎡		上下町市街の道路沿いに建ち，桁行13m，梁間7.4m，木造二階建，寄棟造鉄板葺である。正面中央に張出した玄関ポーチの上部を塔屋状に立ち上げ，外壁は二連または三連の縦長窓を配置する。鉄筋コンクリート造の外観形式を木造で表現した，もと警察署庁舎。		
国	登録有形文化財（建造物）	桑田家住宅主屋	くわだけじゅうたくしゅおく	1棟	府中市本山町	平29.10.27	木造平屋建，茅葺（銅板仮葺）	建築面積174㎡	崖地に高い石垣を築いて整形した土地に建つ農家。主屋は江戸末期の当地方における標準的平面を持つ大型農家で，西側に建つ離れは昭和期の建築で，座敷に琵琶（びわ）床を設け，細部意匠に凝る。石垣は6メートル超と高く積み，打ち込み接ぎの精緻なもので，塀は土塀で漆喰塗とし，地域の景観を特徴付けている。		江戸末期／明治前期・昭和前期・昭和42年頃・平成26年改修
国	登録有形文化財（建造物）	桑田家住宅離れ	くわだけじゅうたくはなれ	1棟	府中市本山町	平29.10.27	木造平屋建，瓦葺	建築面積65㎡			江戸末期／明治前期・昭和前期・昭和42年頃・平成26年改修
国	登録有形文化財（建造物）	桑田家住宅石垣及び塀	くわだけじゅうたくいしがきおよびへい	1基	府中市本山町	平29.10.27	石垣：石造 塀：土塀，瓦葺	石垣：延長38m 塀：延長36m			明治後期／昭和前期増築
国	登録有形文化財（建造物）	旧片野製パン所	きゅうかたのせいぱんしょ	1棟	府中市上下町上下	平30.11.2	木造2階建，瓦葺一部金属板葺	建築面積23㎡	下町本通りの角地に建つ。モルタル大壁の一階にアーチ窓，二階に縦長窓を並べ，隅部の柱形や軒蛇腹，開口部のレリーフなどで豊かに飾る。		昭和9年／平成17年改修
国	登録有形文化財（建造物）	翁座	おきなざ	1棟	府中市上下町上下	令2.8.17	木造二階建，切妻造桟瓦葺	建築面積418㎡	歴史的な町並みの中核として親しまれる芝居小屋。吹き抜けの客席や回り舞台装置などを備え，二階はコ字形に桟敷席と擬宝珠(ぎぼし)高欄(こうらん)を廻らす。現在は市が取得し，公開施設として活用。		大正14年、昭和21年増築、平成6年改修
国	記録記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	弓神楽	ゆみかぐら		府中市上下町	昭和46年（1971）12月23日（県指定） 昭和53年（1978）1年31日（選択）			私祭神楽としての弓神楽は，元来備後一円に行われた。この神楽は家庭祭祀―土公祭や年祝などに演奏される私的な神楽で，普通の立神楽ではなく正座して行われる。◎　民家の奥座敷を祭場として，神座の前に青御座を敷き，その上に揺輪を伏せて扱え，その上に御幸菖一二本と半紙に包んだ米小量を入れる。弓の弦を上方にして揺輪に結びつけ，その弦を打竹で打ち鳴らしながら祭文を唱えて演奏するものである。		